

都心における子どもの遊び環境に関する研究

—福岡市中央区K小学校区における調査事例（その2）—

○安恒万記* 瀬渡章子** 田中智子** 梶木典子*³（*筑紫女学園短大，**奈良女大，*³奈良女大・院）

【目的】引き続き、その2ではK小学校校区内の遊び環境に関して、親が子どもに遊びを禁止している場所、遊ばせるのを不安に思う場所、安心して遊ばせられる場所を把握し、それぞれの理由について検討する。また、大人が見守る場所として、同じ校区内に立地する児童館や共働き世帯の子どもの多くが放課後に通う学童保育所に関して、それらの利用実態や親の評価を明らかにし、それが地域で果たしている役割を検討する。

【方法】調査対象、調査方法はその1と同じ。

【結果】本来、都心では貴重な遊び場であるはずの児童公園が、遊びの禁止場所または不安な場所として多く回答されていた。また、この地域では、幹線道路から住宅地の狭隘な道路への車の侵入が多くみられ、子どもの道路遊びを禁止する世帯は多い。回答世帯の多くは集合住宅居住であるが、ほとんどは団地形式ではなく1棟型であるため、敷地内に屋外遊び場が確保されておらず、不安を感じながらも子どもが駐車場で遊ぶことを容認しているケースも見られた。一方、安心な遊び場と感じている場所としては、児童館、学校など大人の目が届く遊び場が圧倒的に多かった。校区内にある児童館の利用度は比較的高かったが、屋外遊び場の設置や活動内容の充実をはじめ、ハード、ソフトの両面から改善を希望する声は強い。